

千葉 あいご

Vol. 78

Index

- ①～③ 令和3年度新型コロナウイルス感染症研修会
- ④ 新事業所紹介
- ⑤ わが施設の自慢・アピールポイント⑥
- ⑥ 千葉知協トピックス
- ⑥ 第48回「手をつなぐ作品展」開催日程
- ⑥ 令和3年度千葉県知的障害者福祉協会役員等名簿
- ⑥ 事務局だより・編集後記

第78号 (2021年7月号) 発行日：2021年7月20日 / 発行者：里見吉英 / 編集者：畠山正昭・菅谷大輔・秋山直樹

発行所：千葉県知的障害者福祉協会

[本部] 千葉市中央区中央4-3-5 カンガルービル4F B TEL 043-224-5721 HP <http://www.chibachiteki.com/>

[事務局] 船橋市金堀町499-1 大久保学園内 TEL 047-457-2462

令和3年度新型コロナウイルス感染症研修会

令和3年4月23日
於：千葉市文化センター

開会挨拶

千葉県知的障害者福祉協会 会長 里見 吉英

新型コロナウイルス感染症に日々、危機感をもつて仕事をしている皆さんにとって、この研修が必ずや意味のあることと思っております。三密の中で仕事をしている私達にとって更に緊張した対応が迫られてきます。現場で働く支援員の方々の努力に感謝申し上げます。

① 福祉従事者のPCR検査について
当初、東葛地区に限定されておりましたが、福祉協会は県に提案し、全県下でPCR検査が受けられるようになりました。

② 県との協定の締結について
「家族等が感染した濃厚接触者の障害児者の短期入所での受け入れ」「施設等でのクラスター発生時の応援職員の派遣」について、支援体制の構築の協定2点を県と締結しました。

一つ目は親御さんがコロナ感染症に罹患しお子さんが陰性であり、ご家庭でみる人がいないとき、この場合、施設が支援を行うケースです。二つ目は施設等でクラスターが発生した場合、まずは、法人内の職員が応援に入り、そこに補充する形で協会の応援職員が入るケースです。

短期入所の受け入れや職員の派遣については各施設で準備や体制を整えて欲しいと思っています。



さて、新型コロナウイルス感染症の発生より1年4ヶ月が過ぎ、決していい方向に向かっていない現状ではありますが、今に至っている所です。加えて、変異ウイルスも蔓延・拡大してきており、その中でグループホームと入所施設は24時間体制で支援しており、どのような対策や防止が出来るのか考えていかなければならないと感じています。職員を守る体制を整えながら利用者が通常の生活ができるようにしていかなければなりません。

そもそも私達の仕事はソーシャルディスタンスがとれない仕事です。行政は閉鎖も示唆するような事も言われてきましたが、私達、障害者施設は事業を継続しなければならぬ責務があります。このことを福祉協会としても強く訴えていきたいと思います。今でこそ世の中は福祉施設にやさしくなってきましたが、最初にコロナ感染症にかかった北総育成園は大変だったと思います。世間のパッシングは酷かったと感じています。

最後に、終息の見通しにはコロナワクチンを利用者・福祉従事者全員が接種していくことが重要と思っております。高齢者の次に障害関係は接種できることになっていきますが、早く、障害者・福祉従事者が元の普通の生活に戻れる事、そして、皆さんと研修会を終えてその後、交流会をもてる日が来ることを願って私の挨拶とさせていただきます。

クラスター発生時の対応とその課題等

児童入所施設から

社会福祉法人 大成会 不二学園

施設長 木川 雅央 氏



この度はクラスター発生に伴い、千葉県福祉協会をはじめ、千葉県及び各関係の皆様には多大なるご支援、励ましのお言葉を頂戴し感謝申し上げます。

はじめに、発生から経過について報告します。

1月28日、宿直明けの職員が朝方より咳の症状があり。この時、児童は通常に登校。1月30日、当該職員が新型コロナウイルス陽性との検査結果。すぐに保健所に連絡して指示を待っておりましたが当時、保健所より、成田市は第三波で感染者が多くており、「順番や情報収集のため、時間をください」との返答。2月2日、ようやく児童58名、職員43名の全体検査を実施。2月4日、男児10名、職員3名が陽性となり、クラスターとの認定がされました。すぐに、男児を3棟に分別、女児棟の出入りを遮断し、法人の他事業所より8名の職員の応援。また、法人対策本部より職員の宿泊先としてビュートホテルを用意してもらい対応。以降3月17日、クラスター終息に至るまで、男児22名、職員7名、職員家族1名、合計30名が罹患しました。

対応と課題についてですが、発生後、男児は止む無く3棟に分かれての生活になりました。

通常と異なる生活環境であったため、ストレスがたまり、各棟居室等の破損がひどくありました。期間中は外に出られず、我慢を強いられることが多くありました。

当法人で特別休暇を設け、PCR検査も積極的に行ってきました。しかし、最初に発症した職員は咳だけの症状であったこと、当日の宿直予定の変更が難しかったため、そのまま見過ごしてしまったことを今さらながらに後悔しています。

今回、クラスター発生を経験し、入所児・職員が軽症・無症状で済んだこと、学校や児童が通院している病院や地域に広がらなかったことに安心しています。また、罹患してしまった職員も無事に現場に復帰してくれました。変異株も現れ、まだまだ、新型コロナウイルスとの闘いは続きますが、自分たちが出来ることを行っていきます。今回の件で不二学園は沢山の方々を支えられていることを改めて実感できました。

通所施設から

社会福祉法人 一路会 陽(ひだまり)

児童発達管理者 正井 知之 氏



一路会の事業は生活介護、放課後等デイサービス、短期入所、グループホーム、移動支援、相談事業を展開しています。職員の勤務は日中、それぞれの事業で活動しておりますが、夜間は短期入所、グループホームの宿直業務を行っています。また、短期入所と生活介護の送迎は生活介護事業所に一度、集まり、各方面の車両に乗り

換えて学校や他事業所へ送迎をしております。送迎ルートは複雑で12本程でした。これも後々、人の交差による拡大の原因とも考えられます。

次に発生から経過についてですが1月6日、他事業所より通所している利用者の母親が発熱してPCR検査を受けた旨の連絡があり、1月8日、母親が陽性で本人は陰性。同時に法人内で体調不良者数名を確認しました。これにより送迎は各事業所単位の単独で実施。1月18日、通所の利用者の陽性が判明。保健所の指示を受けるが、利用者・職員が交差している状況が複雑すぎて理解が難しく、濃厚接触者の断定に時間を要する。以降、利用者・職員の濃厚接触者にPCR検査を実施すると1月21日、利用者9名、職員4名が陽性。これによりクラスターと認定されました。

更に法人内のPCR検査を160人に対象を絞って実施。結果、合計、利用者10名、職員4名が陽性。保健所の指示で利用者の出入りを遮断、職員の利用者支援は固定の対策をとりました。1月26日、自宅で利用者1名が陽性。以降、2月5日、終息まで陽性者はでませんでした。

今回の事について、事業所内で感染対策は行ってきましたが、どこかに私達の認識の甘さがある結果が出る前にはすでに蔓延していた可能性が高かったと思っています。また、身の回りで一人も出ていないことから気持ちの緩みがあったと感じています。コロナウイルスはとても不安であり、また、とても怖いものです。私達はライフラインと同様に事業を止めるわけにはいきません。今後、いつ何時感染するかわからない不安がありますが、同じことを繰り返すことがないよう新しい情報を取り入れ「正しく恐れ」ことを念頭において業務してまいります。

障害者支援施設から

社会福祉法人 心聖会 小池更生園
施設長 吉村 優児 氏



発生から経過についてですが、第一報が入ったのは1月12日、同法人通所施設の障害者支援センターの職員1名がコロナウイルス陽性の電話がありました。通常、センター職員は入所施設の小池更生園の夜勤業務をしており、利用者におい

ても法人グループホームや小池更生園、支援センターと日中活動や生活の場合は交差しています。一人陽性者がでたということは入所施設に蔓延している可能性があると考え、まずは入所施設の小池更生園に厳戒態勢をとりました。16日、支援センターに通う利用者2名が陽性。数日前から熱のあった入所の利用者1名が陽性。その後、利用者・職員各事業所全体にPCR検査を実施。1月15日に利用者15名、職員3名に陽性の結果。2月12日、終息に至るまで利用者25名、職員9名が感染しました。

次に、クラスター認定より終息に至るまでの対応についてですが、クラスター認定より保健所の指導でゾーン分けが開始。日々、状況が変わっていくゾーン分けに皆が集まって打ち合わせができず、指示書を作成して職員はそれに従って動けるように周知しました。また、終息までの期間を示した「日めくりカレンダー」を作成しました。職員のモチベーション維持に繋がったと感じています。

罹患者の症状についてですが、感染発症から

4日ぐらいから病状が急変する方がいました。利用者数名は連日、40℃以上の高熱を出す方や酸素濃度が70を切る方もいました。軒並み医療機関に連絡するも、クラクターの発生した施設という事で「往診はできません」との回答。また、毎日、その方を見ている私達にとって「食事を取らない、好きな事に関心を示さない」等の異変を一大事と感じるわけですが、最初、保健所、医療機関の方には中々理解してもらえないこともありました。体調悪化の利用者を前に職員はなすすべなく、医療機関に頼るしかなく、もどかしさを感じました。

まさかが現実になった時、不安も多くありましたが、職員全員が必死に対応したこと、そして、この局面に職員が一丸となって乗り切ったことを心強く感じ、感謝しています。

感染症発生時に備えた業務継続計画を現場で活用するポイント

社会福祉法人 菜の花会 しもふさ学園
地域支援センター センター長 藤崎 進 氏

(厚生労働省BCP作成検討委員会委員)

業務継続計画（BCP）についてですが、BCPは最低限必要な情報を整理したものです。目的は利用者の生活を守るためのツールとしてBCPを活用するとの意味合いがあります。業務継続ガイドラインは大きく分けて2つの内容に分かれています。一つ目は平時の準備や備えについて、二つ目は感染者が出た場合の対処方法です。

平時の業務継続計画を活用するポイントについて説明をします。

- ① 体制について、対策本部を設置して、各部署役割責任者を決めておく。
- ② 情報の共有について、SNSや文書発送等

を利用して職員・保護者へ情報を共有。
③ 衛生用品・防護服等を必要数確保しておく。
④ 業務調整。濃厚接触者にならないように予防する。予め宿泊場所を決めておくことよい。
⑤ BCPの内容に沿った模擬訓練をしておく。
次に発生後の対応のポイントについて説明をします。

- 1 感染疑いの症状が認められた場合は感染症と疑い対応する。速やかに医師に相談。
- 2 濃厚接触者の断定。行動履歴記録や本人のフェイスシートを確認して対策本部に連絡する。正確な情報を保健所へ連絡する。
- 3 発生後は保健所や担当医師の派遣がすぐに来るとは限らない。一人でも罹患したら躊躇することなくゾーニング等の初動対応をする。



詳しくは「BCP 厚労省 藤崎」で検索するとYouTubeで配信されています。現場で役立つBCPを作って頂きたいと思えます。

さて、菜の花でも、2月1日にグループホームで5名の陽性者が出ました。緊急時の備えをしておきましたので、最小限に食い止めることが出来たと思っておりますが、想定外のことばかり起りました。最後は職員の使命感や職員が一つになり難局を乗り越えようとの意思が大事だと感じました。今回、BCPを作る過程で何が大切なのか、何を大事していくのか改めて感じることができました。

新事業所紹介

社会福祉法人 横の実会

児童デイサービスセンター多古新町ハウス

はじめまして！

児童デイサービスセンター多古新町ハウスです！

児童デイサービスセンター多古新町ハウスは、高齢者デイサービスに併設されている定員10名の放課後等デイサービスです。



多古新町ハウス外観



寺子屋の様子

事業所は、多古町の中心街に位置し、日常的に近隣住民の方々と交流があります。敷地内に無償で開放している学習スペース「寺子屋」は、学校帰りの多古高校生が勉強(?)したり、地域の方々がカフェを開いたり、カルチャー教室、研修等で利用され、多世代で賑わう場所となっています。(残念ながら、現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため閉所中です。) 私達は、児童が放課後等を安心して過ごしていただける場所となるよう日々心掛けています。利用者一人ひとりの個性を尊重しつつ、宿題や自立支援教材に

よる個別活動はもとより、散歩やイベント等の集団活動の楽しさを感じていただけるよう、知恵を出し合っています。

また、事業所には同じ屋根の下でご高齢の方々といつでも触れ合えるという「強み」があります。お手伝いをして頑張っている姿をおじいちゃんおばあちゃんから自分の孫のように褒められて喜ぶ子、大声を出して叱られてしまう子(笑)、おばあちゃんたちに甘える子、そして小さい子どもたちを見て微笑んでいる方々等、様々な表情をみることが出来ます。

子どもたち一人ひとりの表情・表現を大切に、地域の皆さまとともに心休まる居心地の良い場所にしていきたいと思っております。多古新町ハウスをどうぞよろしくお願い致します。

横の実会地域支援部長 高安 一弘

社会福祉法人 薄光会

多機能型事業所 あおいそら

くちよことした困りごとのお手伝い



あおいそら外観

あおいそらは令和2年6月にオープンした生活介護と自立訓練(生活訓練)の多機能型事業所です。私たちのコンセプトは『私たちのできることで、地域のお役に立つこと』です。あまり器用なことではできませんが、草取り作業や



除草作業で地域の役に

清掃作業などを中心に、感染予防対策を行いながら活動しています。

また、利用者さんが運営している『あおいそらカフェ』という喫茶店も併設しており、地域の方々からは「お茶する場がなかったからありがたい」という言葉も頂いています。

利用者さんが作った雑貨類で囲まれたカフェでは、淹れたてのコーヒーを飲みながら、いろいろなお話が聞かれます。「近所のスーパーが閉店してしまい、買い物ができない」「庭の草取りが、膝が痛くてできない」「スマホの使い方がわからない」などなど。そんなよろず相談的な場になっています。そこで利用者さんの出身です。草取り作業や買い物代行など、できることで、地域のお役に立つことができます。更に同じ建物の2階に富津市より基幹相談支援センターの委託を受けた相談支援事業所が事務所を構えているので、専門的な相談があった場合は、お願いしています。

私たちの仕事は、利用者さんの輝ける場の提供だと思っています。それは地域の中にたくさんあって、それをどう利用者さんのできることに繋げるかだと思っています。これからも地域の方々と共に、できることで貢献しながら、活動を続けていきたいと思っています。

施設長 幾野 圭裕

支援スタッフ
から見た!

わが施設の自慢・アピールポイント③⑥

平成20年度から35回にわたり91の“プチ自慢”をご紹介してきましたこのコーナー。今回は2つの“プチ自慢”です!

東葛北ブロック・社会福祉法人桐友学園・障害者支援施設…沼南育成園

自分らしく生きること! 広く親しまれる場

沼南育成園(社会福祉法人桐友学園)は設立されてから50年以上が経ち、現在は周りに住宅地が囲まれ、地域の方々に支えられ、地域に根差した施設となっています。

千葉県柏圏域、近隣地域など障害者に対するニーズに幅広く応えて、障害者支援施設、居宅支援、相談支援など幅広く運営を行っています。

その中で私が所属する生活介護事業では、大きく生産活動、創作活動、機能訓練班に分かれて作業を行っています。

生産活動の中のリサイクル班作業の電線剥きについて紹介したいと思います。この作業を行っている施設が数少ない所が自慢です。電線はお世話になっている電器屋さん月に一度利用者さんと出向いて不要になった大きな電線を貰ってきます。持ち帰った電線は利用者さんが作業しやすいように作業専任さんが小さく切って準備を行います。その電線を利用者さんがカッターで外枠を切り、銅線と分ける作業を行います。作業スピードはとても速いので、電線の提供量を考えています。



電線剥きの様子



沼南育成園 外観

カッターが使えない利用者さんに対しては、手で電線を剥きやすいように職員が準備して提供しています。皆さん集中して作業に取り組んでいます。

沼南育成園の利用者さんはみんな元気で明るく个性的です。利用者さんたちに毎日癒されて幸せな日々を過ごしています。新しい発見の連続で、沼南育成園で働く事ができて本当に良かったと思います。

係長補佐 関根 正敏

香取海浜ブロック・社会福祉法人ロザリオの聖母会・障害者支援施設…佐原聖家族園

20周年 Anniversary!! 振り返りとこれから……

佐原聖家族園は、香取市の自然に恵まれた場所に平成13年に設立された施設です。佐原市初の入所施設の設立にあたっては、「手をつなぐ親の会」が20年の歳月をかけ旧佐原市と折衝を重ね、ロザリオの聖母会がその任を受けることとなりました。開設当時、全室個室での小舎制は県下の知的障害者施設としては画期的なことでありました。日中活動を重視するとともに、小舎制を活かしたユニットケアは現在も心掛けています。

「私たちは家族です」を合言葉に利用者、家族、職員が支え合い、開設から20年目を迎える今日まで共に歩んでまいりました。近年は天災による被害、世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルスなどを挙げればきりがありません。しかし、それらの困難も30周年を迎えた時・振り返った時に、『あんなこともあったなあ』と良い思い出として語り合えることを思い描いています。また、施設は決して特別な場所ではなく、地元の方々との触れ合いの中にある、



20th Anniversary インスタ風



全員集合

ごく普通の暮らしの場となるよう、気持ちもオープンに取り組んでいきたいと思っています。

支援スタッフから見た!“プチ自慢”は4月に施設を囲む25本の桜が満開になり新たな気持ちになれること、開設時からの支援スタッフが在籍していることです。“プチ自慢”と同時に財産でもあります。これからも「私たちは家族です」を合言葉に家族・地域の方々を迎えられるような施設でありたいと考えています。

支援員 小曾根 歩

千葉知協トピックス

スポーツ文化委員会 成田市のぞみの園

千葉 健彦

「三重とこわか大会」千葉県代表選手決定

10月23日から25日まで三重県で開催される第21回全国障害者スポーツ大会「三重とこわか大会」の千葉県代表派遣選手が発表されました。台風19号により大会中止となった茨城大会、新型コロナウイルス感染症拡大による大会延期となった鹿兒島大会以来、3年ぶりの全国大会開催となります。千葉県の知的障害関係選手は個人競技29名と、最強の選手団が選考され今年も千葉県選手団の大いなる活躍が期待されます。知的障害関係の派遣選手は以下のとおりです。

陸上男子

重松颯太、青木聖真、加納大聖（以上、ones Para Athlete Club）、寫田開人、岸田悠弥、米澤 諒（以上、Diversity A.C.千葉）、折原巧真（松戸市）、久保田 剛（富里福葉苑）、立津流星（安房特別支援学校）、松本吏功（湖北特別支援学校）

陸上女子

鈴木裕貴（Diversity A.C.千葉）、原野史菜（我孫子市）、土岐章子、（富里福葉苑）、山本京子、高原麻衣子（以上、ひかり学園）

水泳男子

上村 温（我孫子市）、中島啓智（習志野市）、八重樫 準（市川市）

水泳女子

卓球男子・安藤 渉（成田市）
卓球女子・竹守 彪、鈴木圭太（以上、TOMAX）、田中 諒（SON・千葉）

卓球女子

ボウリング男子・菊地孝治（NPOリープ）、廣瀬春輝（SON・千葉）

ボウリング女子・友田彩花（君津市）
フライングディスク男子・

西城師（秋桜社会福祉会）、田中秀治（ふる里学舎）、谷田川竜翔（市川市）

令和3年度 千葉県強度行動障害支援者養成研修の開催について

千葉県の委託により生活サポート千葉が主催する強度行動障害支援者養成研修が今年度も開催されます。今年度より研修プログラムの変更に伴い、去る5月10日に基礎研修担当の講師及びファシリテーター向けの研修会が開催され、当協会加盟の県下施設及び事業所関係者が一堂に会し研修の流れや要点の確認を行いました。研修の開催予定日は以下の通りです。

基礎研修

第1回目 令和3年8月20日+圏域演習
第2回目 令和3年12月3日+圏域演習
※各回とも2日目の演習は所属圏域により日程が異なります。

実践研修

第1回目 令和3年10月26・27日
第2回目 令和4年2月21・22日

第48回「手をつなぐ作品展」開催日程

北部地区
開催日 令和3年9月27日(月)～29日(水)
会場 イオンモール八千代緑が丘
事務局 大久保学園

中部地区
開催日 令和3年7月30日(金)～8月1日(日)
会場 ユニモちはら台
事務局 中野学園

南部地区
開催日 令和3年8月20日(金)～22日(日)
会場 イオンモール富津
事務局 ふる里学舎蔵波

令和3年度千葉県知的障害者福祉協会役員等名簿（一部変更）

役員	会長	里見 吉 英	(ふる里学舎)
	副会長	小林 勉	(菜の花会)
	副会長	佐久間 智	(しおさいホーム)
	副会長・事務局長	千日 清	(大久保学園)
	監事	白鳥 征四朗	(心聖会)
部長	監事	佐久間 水月	(井園士)
	生産活動就労支援部会長	片山 純	(ワークわく・きよさと)
	児童発達支援部会長	新福 麻由美	(桐友学園)
	障害者支援施設部会長	佐久間 智	(しおさいホーム)
	日中活動支援部会長	辰巳 陽 治	(たかね園)
	相談支援部会長	越野 将 浩	(山武みどり学園松尾)
委員長	地域支援部会長	内野 浩 司	(ピア宮敷)
	支援スタッフ部会長	鶴岡 秀 隆	(ピア宮敷)
	スポーツ文化委員会	藤 寄 明	(第二ひかり学園)
	研修委員会	小林 勉	(菜の花会)
	広報委員会	山 正 昭	(中里の家)
	調査研究委員会	飯 島 広 司	(佐原聖家族園)
	権利擁護委員会	濱 本 典 子	(でい・さくさべ)
	福利厚生委員会	中 村 敏 久	(上総希望の郷)
	政策委員会	古 山 勇 彦	(聖家族園)
	人材確保特別委員会	中 古 村 輝 彰	(ピーアンピヤス)
災害対策委員会	樋 口 樋 夫	(上総ゆうゆうの郷)	

事務局便り

事務局長 千日 清

「感染予防とワクチン接種の双方に目を向けている毎日。地域による対応の差も痛感。一日も早く開放感を感じたい。ここまで頑張ってきました。あともう少し……」

編集後記

くすのき苑 秋山 直樹

どう対策するか、なってしまうらどう対処するか。制限のある中でどのような支援をしていくか。今回も編集を通して様々な情報に触れることができました。得た情報を知識に、力に変えて活かしていこう。